

第 67 回日本卵子学会学術集会

O-015

埼玉 2026.6.6-7

培養液別にみた C-IVF および ICSI における胚盤胞形成率の検討

中野達也¹、中岡義晴¹、森本義晴²

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

²医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

目的：C-IVF と ICSI では受精後の培養開始時期が異なる施設も多いが、これらの違いが胚発育に及ぼす影響は十分に検討されていない。本研究では培養液別に C-IVF および ICSI の胚培養成績を比較し、さらに年齢層別解析で、受精方法による培養条件の違いが胚発育に及ぼす影響を検討した。

方法：患者同意を得て、2024～2025 年に当院で採卵し胚盤胞まで培養した受精卵を対象とした。検討①では培養液を HiGROW OVIT Plus (OVIT 群) および A 社培養液 (A 群) に分類し、各培養液における C-IVF と ICSI の胚盤胞 (BL) 率および良好 BL 率を比較した。検討②では採卵時年齢を 39 歳以下群と 40 歳以上群に分類し、同様の解析を行った。

結果：検討①では、OVIT 群の C-IVF と ICSI の BL 率は 71.1%、70.6%、良好 BL 率は 32.7%、30.9% で差はなかった。A 群でも BL 率は 68.1%、66.7%、良好 BL 率は 29.2%、27.9% で差はなかった。検討②では 40 歳以上の OVIT 群で ICSI の BL 率 (67.6%) が C-IVF (62.9%) より高かったが、良好 BL 率は 25.4%、23.1% で差はなかった。39 歳以下の OVIT 群では BL 率 73.7%、71.8%、良好 BL 率は 35.0%、34.1% と差はなかった。A 群の年齢層別解析でも BL 率 (39 歳以下 C-IVF は 69.4%、ICSI は 69.1% ; 40 歳以上 C-IVF は 63.2%、ICSI は 60.7%)、良好 BL 率 (39 歳以下 C-IVF は 31.4%、ICSI は 31.4% ; 40 歳以上 C-IVF は 20.9%、ICSI は 18.8%) に差はなかった。

考察：全年齢解析では、両培養液はいずれの受精方法においても安定した胚発育成績を示した。一方、OVIT 群の 40 歳以上症例で ICSI の胚盤胞率が高かった点は注目される。C-IVF では Day1 から、ICSI では Day0 から培養を開始するため、受精時の培養環境の違いが、高年齢症例の胚盤胞到達率に影響した可能性が考えられる。